

## 船舶事故調査報告書

平成28年8月18日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根 本 美 奈

|   |  |
|---|--|
| 事故種類  | 火災   |
| 発生日時  | 平成27年11月12日 01時30分ごろ   |
| 発生場所  | 京浜港川崎第1区市営ふ頭3号岸壁<br>川崎東扇島防波堤西灯台から真方位000° 3,460m付近<br>(概位 北緯35° 30.7′ 東経139° 45.0′)   |
| 事故の概要   | 貨物船 <sup>ホンヤン</sup> HONG YANは、係留中、積荷のスクラップに火災が発生した。<br>HONG YANは、機関室の焼損等を生じた。  |
| 事故調査の経過   | 平成27年11月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所ほか1人の地方事故調査官を指名した。<br>原因関係者から意見聴取を行った。   |
| 事実情報<br>船種船名、総トン数<br>船舶番号、船舶所有者等<br>L×B×D、船質<br>機関、出力、進水等 | 貨物船 HONG YAN（カンボジア王国籍）、1,514トン<br>8511225（IMO番号）、HONGKONG XIANGRUI SHIPPING CO., LIMITED<br>70.00m (Lr) × 12.00m × 7.00m、鋼<br>ディーゼル機関、1,176kW、1985年1月  |
| 乗組員等に関する情報  | 船長（バングラデシュ人民共和国籍） 男性 35歳<br>海技免状等 不詳   |
| 死傷者等  | なし   |
| 損傷  | 左舷中央部の船側外板に破口及び機関室の焼損  |
| 気象・海象   | 気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 2、視界 良好<br>海象：海上 平穏   |
| 事故の経過   | 本船は、船長ほか9人（中華人民共和国籍7人、ベトナム社会主義共和国籍1人、バングラデシュ人民共和国籍1人）が乗り組み、平成27年11月11日06時40分ごろ京浜港川崎第1区市営ふ頭3号岸壁に右舷着けし、08時30分ごろから積荷役を開始した。<br>本船は、17時00分ごろ、約1,000t積み込む予定のスティールスクラップ約550tを積んだところで積荷役を一旦中断した。<br>当直中の甲板員は、12日01時30分ごろ、船倉の左舷船尾付近から煙が出ていることに気付き、船長に報告して消火作業を行った。<br>乗組員の消火作業を認めたふ頭警備員は、02時25分ごろ119番通報した。<br>川崎市消防局は、海上保安庁に本事故の発生を連絡した。 |

|   |  |
|---|--|
|   | <p>本船は、乗組員全員が陸上施設に避難し、消防車、巡視艇、消防艇等による消火作業が行われるとともに、重機によるスクラップの陸揚げが行われ、13日13時12分ごろ鎮火した。</p> <p>本船は、本事故後、左舷中央部の船側外板に2か所の破口が確認され、修理された。</p> |
| その他の事項  | <p>本船は、日本で建造された船尾船橋型の船舶を改造した船齢約30年の鋼船であり、船倉が船首部から船橋前部まで続いていた。</p> <p>積荷のスクラップには、金属類、電化製品、プラスチック、電気配線等が混在しており、油脂類の付着物も多く見られた。</p>         |
| <b>分析</b><br>乗組員等の関与<br>船体・機関等の関与<br>気象・海象等の関与<br>判明した事項の解析 | なし<br>なし<br>なし<br><p>本船は、市営ふ頭3号岸壁において係留中、積荷のスクラップが発火して周囲の可燃物に燃え移った可能性があると考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。</p>                                |
| <b>原因</b>   | <p>本事故は、夜間、本船が、市営ふ頭3号岸壁において係留中、積荷のスクラップが発火して周囲の可燃物に燃え移ったことにより発生した可能性があると考えられる。</p>   |
| <b>参考</b>   | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクラップは、可燃物を分類し、可能な限り除去することが望ましい。</li> </ul>            |